

寒い日がまた続いていきますね。今日はちょっとあったかくなるお話です。

『すすめのくつした』（ゆかないゆかいなおはなし）

ジョージ・セルデン／ぶん 光吉郁子／やく ピーター・リップマン／え

大日本図書 2010年 1260円

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★★★★ 小中学年★☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆  
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

スコットランドにすむ小さなおとこの子、アンガスのおとうさんとおかあさんとふたりのおじさんはくつしたをつくっています。おとうさんたちのくつしたこうばには、カタコト、カタコト、クルクル、ブルン、ブルン、とまわってどなくつしたでもあめるすてきなきかいがあるのです。ところが、さいきんくつしたがうれなくなってきました。ふゆがきたのに、あたらしいがらのくつしたはなかなかうれません。

アンガスにはすすめのブルースというともだちがいました。あるあさ、アンガスはブルースがさむさであしをあげたりさげたりさいているのにきがつきます。そこで、アンガスはブルースにあのすてきなきかいであたらしいがらのくつしたをつくってあげました。

さて、ブルースのすてきなくつしたをみたすすめのなかまたちは、じぶんたちもくつしたがほしくなってアンガスのところへとんでいきます。アンガスはすすめたちにもくつしたをつくってあげました。きがつくとアンガスのいえのけいとはすっかりなくなってしまうのですが、このすすめたちのくつしたのおかげで、アンガスのいえのくつしたをまちじゅうのひとがはくことになります！

<子どもに手渡すときのポイント>

ひとつひとつの文がリズムカルに短くまとめられ読みやすく、全てのエピソードがうまくつながっているので、この楽しい物語に読者もずると入り込め、ちょっと奇想天外な展開もずとんと心におさまる物語です。黒い線に赤のアクセントが効いた挿絵も物語の楽しい雰囲気をもよく伝えてくれています。一人読みを始めた子どもにぜひ手渡してください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。